

研究種目：若手研究 (B)  
研究期間：2007 年度 ～ 2010 年度  
課題番号：19720023  
研究課題名 (和文) 不定形音楽の理念の成立過程とその現代的意義に関する研究  
研究課題名 (英文) musique informelle as a key concept for history and aesthetics of music  
研究代表者  
高安 啓介 (TAKAYASU KEISUKE )  
愛媛大学・法文学部・准教授  
研究者番号：70346659

研究代表者の専門分野：美学  
科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史  
キーワード：アドルノ・前衛・現代音楽・音楽学・美学

#### 1. 研究計画の概要

アドルノが 1961 年にダルムシュタット国際新音楽夏期講座でおこなった講演「不定形音楽に向けて」は、前衛音楽の歩みについて反省するうえでも、前衛音楽の行方について考察するうえでも、大きな意味をもつ。アドルノにとって不定形音楽 *musique informelle* は、前衛音楽の在るべき姿として、自由な音楽をあらわす一つの理念であった。不定形であるとは、素材にたいして決まった図式が押しつけられるのではなく、素材のなかから未知の形式が引きだされているということであり、混沌にたいして出来合いの秩序が押しつけられるのではなく、混沌のなかから新たな秩序が引きだされるということである。すなわち、不定形音楽とは、そのように生じてくる音楽のことである。アドルノは「1910 年前後」のシェーンベルクの「自由な無調」の音楽をその模範としながらも、時代が変われば、不定形音楽もまた違ったものになると考えた。このかぎり、不定形音楽は、つねに未来にひらかれた理念だともいえる。不定形音楽は、前衛音楽の一種というよりも、前衛音楽の本質規定である。本研究は、不定形音楽の理念がどんな歴史過程のなかで浮かび上がったのか、また

その理念が、今日の状況においてどんな意味を持つのかを明らかにするものである。またこれによって、前衛音楽の歩みについて反省するとともに、前衛音楽の行方について考察するものである。

#### 2. 研究の進捗状況

不定形音楽の理念の背景となっている音楽思想および音楽作品について調べうえで、アドルノがこの理念をかかげるに至った事情を調査するとともに、アドルノの音楽美学の意義について問いながら、アドルノ以後の不定形音楽のありかたを考察した。(1) ダルムシュタット新音楽国際夏期講座におけるアドルノの活動について資料調査をおこなった。(2) アドルノの哲学思想および美学思想について主要テキストの読解を深めた。(3) 現代における不定形音楽のモデルとしてヘルムート・ラッヘンマンの音楽および音楽理論の分析を進めた。(4) 「多文化時代の芸術音楽」についての論考への準備をすすめた。アドルノは、西洋の芸術音楽への反省に徹していたが、不定形音楽の理念をさらに、非西洋の文脈

にも開かれた理念として展開することを試みている。

### 3. 現在までの達成度

③やや遅れている。2009 年度まで他の科研費研究にも従事しなければならなかったため。2010 年度は、本研究のみとなるので、集中して取り組みたい。

### 4. 今後の研究の推進方策

2010 年 8 月から 2011 年 2 月までイギリスおよびドイツにて在外研究を行うことになった。国内での学会発表のかわりに、当地での講演ないし授業のなかで、成果を問いたい。そしてとくに、アドルノの「不定形音楽の理念」が、非西洋の文脈のなかで、どのような意味を持つのかについて研究を進め、論文を執筆したい。

### 5. 代表的な研究成果

[図書](1件)

高安啓介(共著)、晃洋書房、  
芸術はどこから来てどこへ行くのか 2009 年  
319-333 頁

[その他](2件)

(コンサート解説文)

高安啓介、ラッヘンマンの音楽  
コンポージアム 2009 年  
東京オペラシティ

(翻訳)

高安啓介(共訳)、作品社  
アドルノ: 否定弁証法講義 2007 年